第２回「災害遺構」検討委員会　2015/11/17

子どもたちから見た災害伝承

東北大学災害科学国際研究所
教授　川島秀一

←伊賀市の大村神社(2012.11.12)

はじめに

1. 学校教育のなかで
2. 年中行事のなかで
3. ムラの生活のなかで

第一次室戸台風被災慰霊祭(2015.9.18、大阪市立住吉小学校)

津波記念日の「津波の歌」

岩手県釜石市唐丹町小白浜→

大津浪記念歌

岩手県撰

復興の歌

大津浪くぐりてめげぬ
雄心もていざ追ひ進み
参ゐ上らまし

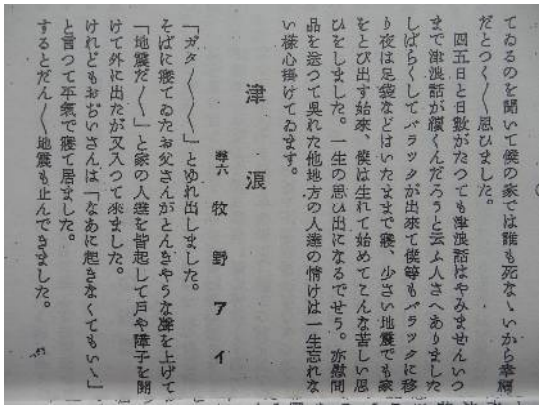
慰霊の歌

亡霊は千尋の海に
鎮もりて栄え行く
代の柱たるらむ

（『岩手県昭和震嘯誌』、岩手県、一九三四）

学校放送の朗読による伝承

『田老村津浪記』(1934、田老小學校)



てゐるのを聞いて僕の家では誰も死なないから幸福だとつく〳〵思ひました。

四五日と日數がたつても津浪話はやみませんいつまで津浪話が續くんだろうと云ふ人さへありました。しばらくしてバラックが出來て僕等もバラックに移り夜は足袋などはいたままで寢、少さい地震でも家をとび出す始末、僕は生れて始めてこんな苦しい思ひをしました。一生の思ひ出になるでせう。亦慰問品を送つて呉れた他地方の人達の情けは一生忘れない様心掛けてゐます。

津　浪

尋六　牧野　アイ

「ガタ〳〵〳〵」とゆれ出しました。
そばに寝てゐたお父さんがとんきやうな聲を上げて
「地震だ〳〵」と家の人達を皆起して戸や障子を開
けて外に出たが又入つて來ました。
けれどもおじいさんは「なあに起きなくてもいゝ」
と言つて平氣で寝て居ました。
するとだん〳〵地震も止んできました。

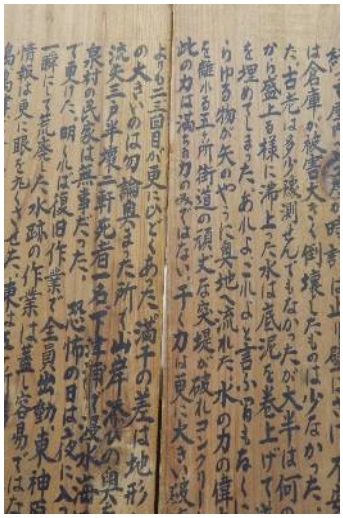
荒谷アイ媼(大正10年生まれ)

学校の廊下に下げられていた災害史の木札

(三重県南伊勢町神津佐)

南伊勢町下津浦の西村恒一板書

此の力は満ちる力のみではない。干く力は更に大きい破壊力を持っていた」



学校行事による伝承「津波祭」(和歌山県広川町広村、2011.11.5)

学校行事による伝承（田野畑村羅賀の津波石 、2011.10.9)

儀礼のなかの伝承　石垣島

明和大津波の慰霊祭(2012.4.24)

タコラサー石

祭礼のなかの伝承　和歌山県白浜町「飛鳥神社祭典」

「津波警告板」(和歌山県白浜町、2014.11.23)

歩行時間を記録する

大正橋の「地蔵盆」①(2011.11.5)

大地震両川口津浪記」

願くハ心あらん人年々文字
よミ安きやう墨を入給ふへし」

大正橋の「地蔵盆」②

供養碑の墨入れ(2015.8.21)

地蔵盆の夜(2015.8.23)

大正橋の「地蔵盆」③(2015.8.24)

地蔵盆の供養

供物を配り歩く

「念仏講まんじゅう」①(長崎市大田尾町山川河内地区、2015.8.14)

お念仏と鉦はり

供物としてのまんじゅう

「念仏講まんじゅう」②まんじゅうを配る

津波石①

(岩手県大船渡市三陸町吉浜、2011.10.2)

津波記念石
前方約二百米突吉浜
川河口ニアリタル石ナル
ガ昭和八年三月三日ノ津
波ニ際シ打上ゲラレ
タルモノナリ
重量八千貫

津波石②(大船渡市赤崎町外口、2011.8.28)

縦三メートル、横二メートル、高さ一メートル大の海石の上に無刻の石を建ててある。明治二十九年三陸海嘯に海底から押し上げられた石であるが、水際から約二百メートルの山林中に横たわる。里人竜神を祀って再びこの惨状を繰返えさぬ様祈ったものと伝えられ、竜神の石と呼んでいる。蔓草に覆われた下にその大岩がある」

(大船渡市市史編集委員会編『大船渡市史』第五巻、大船渡市、一九八二)

津波石③(宮古市摂待、2014.4.17)

気仙沼市唐桑町小鯖の「大震嘯災記念」碑

「「少女の頃、この小鯖湾で泳いだが、泳いだ後はこの碑に濡れた髪を押し付けて髪を乾かした。当時はドライヤーなんかなかったので」とのことであった。(中略)
　それにしても、多くの少女たちの長い髪を乾かした楽しい想い出を持つ幸せな震嘯災記念碑が我々の郷土にあったのである」

(白幡勝美・佐藤健一「気仙沼市における明治・昭和三陸津波関係碑」、2014、私家版)
(2012.8.20→)

大村神社の祭典

(三重県伊賀市2015.11.3)

大村神社の要石

ナマズの山車を曳く